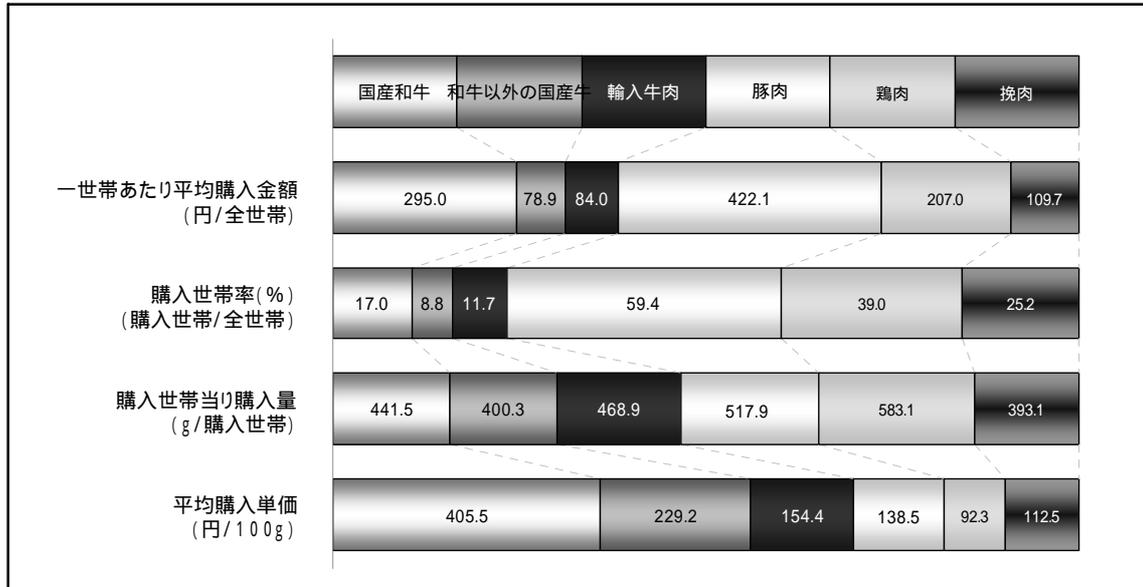


第 章 食肉の購入構造

1 食肉市場の構造(食肉比較)

1. 食肉の購入構造

図表 -1 食肉の購入構造



1) 全体

市場規模のレベルを表す1世帯当り平均購入金額をみると、「牛肉」が最も高く458.0円。次いで「豚肉」422.1円、「鶏肉」207.0円、「挽肉」109.7円となった。牛肉の内訳は「国産和牛」295.0円、「輸入牛肉」84.0円、「和牛以外の国産牛」78.9円となっている。

購入世帯率と購入世帯当り購入量は「豚肉」(それぞれ59.4%、517.9g)が「牛肉」(それぞれ34.6%、474.5g)を上回るが、「牛肉」は平均購入単価が283.3円/100gと、「豚肉」の138.5円/100gの2倍となっているため、1世帯当り平均購入金額で「豚肉」を上回っている。中でも「国産和牛」の平均購入単価は405.5円/100gと突出している。

「鶏肉」は平均購入単価が92.3円/100gで最も安く、購入世帯当り購入量が583.1gと最も多かった。

1 食肉市場の構造(食肉比較)

1. 食肉の購入構造

2) 牛肉

「牛肉」は購入世帯率が 34.6%、購入世帯当り購入量が 474.5g で「豚肉」を下回ったが、平均購入単価が 283.3 円/100g と「豚肉」の 2 倍の水準で、1 世帯当り平均購入金額が 458.0 円と最も高くなった。

牛肉の内訳をみると、購入世帯率が高いのは「国産和牛」(17.0%) だが、購入世帯当り購入量が多いのは「輸入牛肉」(468.9g) である。「国産和牛」の平均購入単価が 405.5 円/100g と高水準であるのに比べ、「輸入牛肉」(154.4 円/100g) は「豚肉」(138.5 円/100g) とあまり変わらないことも一因となっている。

3) 豚肉

「豚肉」は平均購入単価が 138.5 円/100g と、「牛肉」の半値程度のため、1 世帯当り平均購入金額は 422.1 円と、「牛肉」を 35.9 円下回った。しかし、購入世帯率が 59.4%、購入世帯当り購入量が 517.9g と最も高く、量的には一番買われている肉である。

4) 鶏肉

「鶏肉」の 1 世帯あたり平均購入金額は 207.0 円で、「牛肉」(458.0 円) 「豚肉」(422.1 円) の半分以下となる。購入世帯当り購入量は 583.1g で最も多いが、平均購入単価は 92.3 円/100g と 100 円を下回る。購入世帯率は 39.0% で、「牛肉」(34.6%) と同程度である。

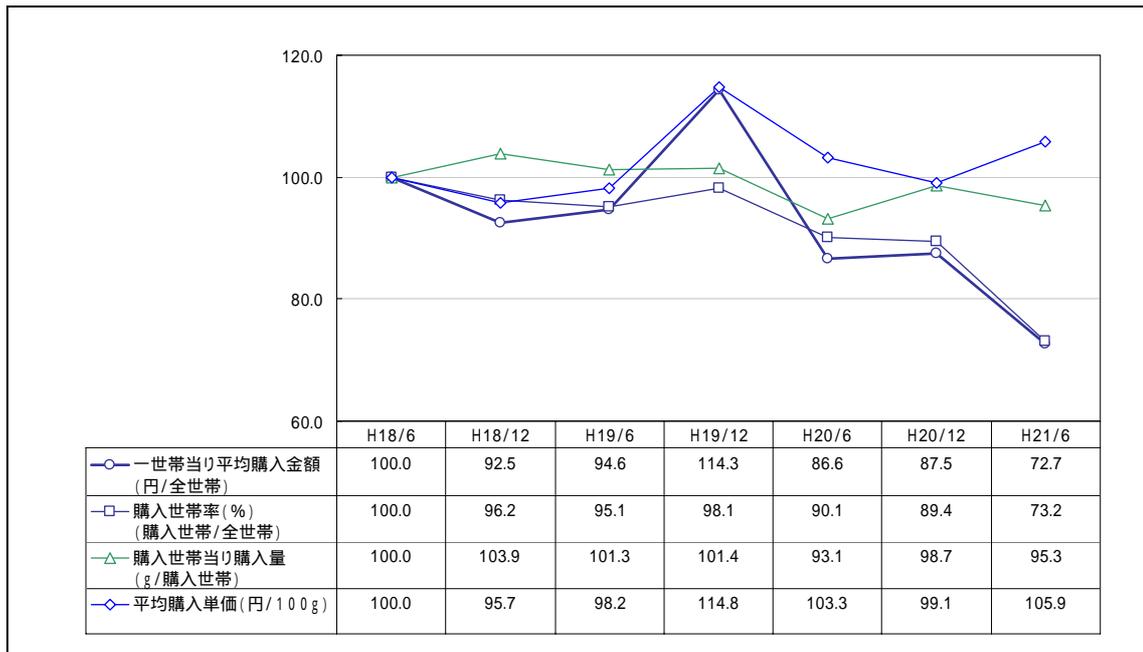
5) 挽肉

「挽肉」の 1 世帯当り平均購入金額は 109.7 円で、牛肉 (458.0 円) 「豚肉」(422.1 円) の四分の一、「鶏肉」(207.0 円) の二分の一程度である。平均購入単価は 112.5 円/100g と「鶏肉」(92.3 円/100g) を上回ったが、購入世帯率が 25.2%、購入世帯当り購入量が 393.1g と最も少なかった。

2 食肉市場の構造変化

1. 牛肉の購入構造の変化

図表 -2 牛肉の購入構造の変化



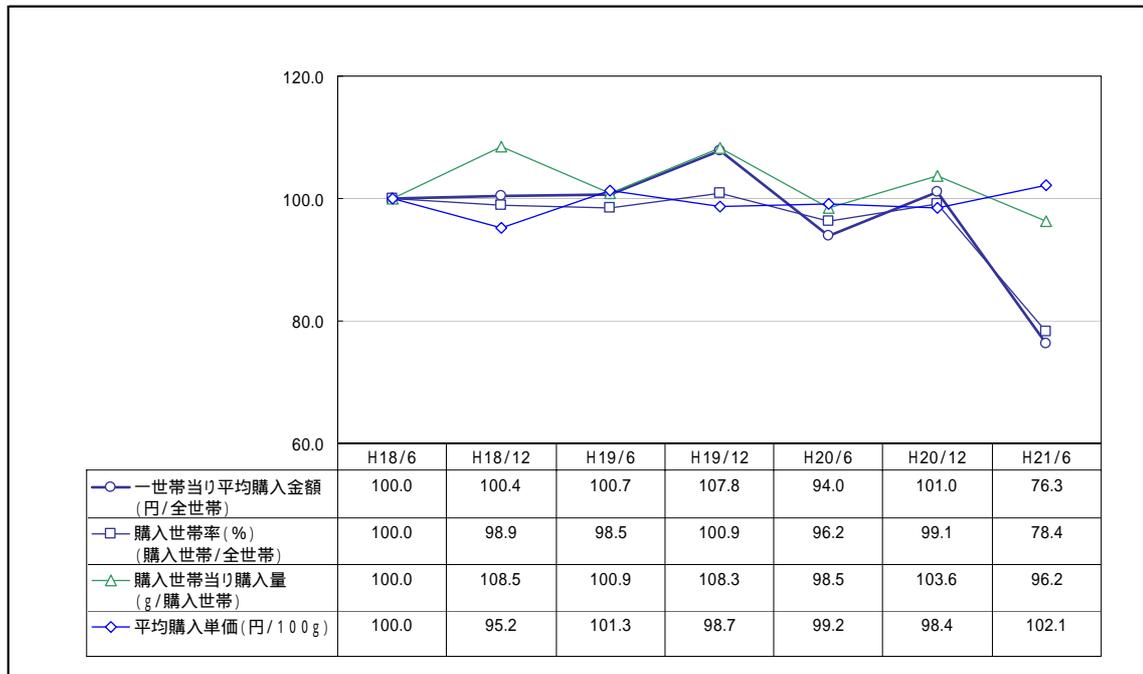
市場規模を示す「一世帯当り購入金額」は、過去6回の調査を通じて変動が大きく、今回の調査では過去6回の調査のうち最も低いレベルとなった。

「購入世帯率」も大きくスコアを下げたが、「購入世帯当り購入量」はほぼ横ばいで、「平均購入単価」は前回は上回る水準となっている。多種多様な牛肉のなかで、牛肉購入世帯では高級ブランド牛などが多く求められているのがうかがえる。

2 食肉市場の構造変化

2. 豚肉の購入構造の変化

図表 - 3 豚肉の購入構造の変化



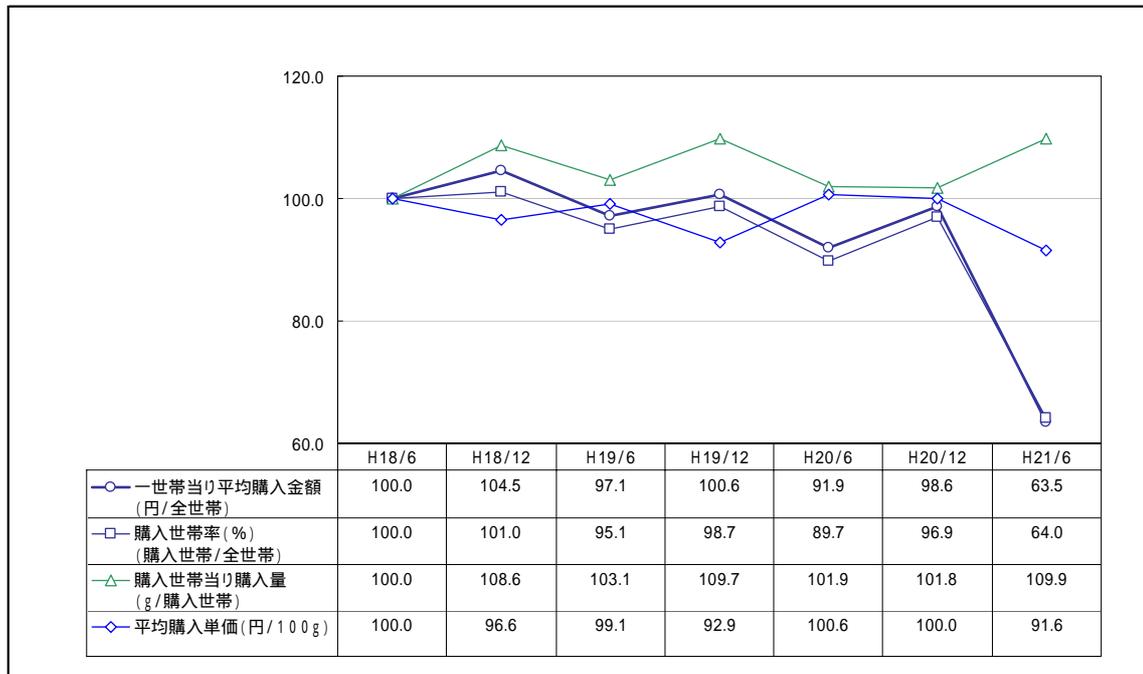
市場規模を示す「一世帯当り購入金額」は、平成 20 年 6 月に一度大きく下降、前回調査では再び上昇したが、今回の調査では 20 年 6 月をさらに大きく下回る水準となった。

「豚肉」の「購入世帯当り購入量」は、冬に上がり夏に下がるという季節変動が引き続き見られ、「購入世帯率」も大きく下げているが、「平均購入単価」は 102.1 円で、平成 18 年以来過去 6 回の調査の中で最も高い水準にある。豚肉も多くのブランドが創出されており、牛肉と同様、選ばれた高級な豚肉が購入されているのうかがえる。

2 食肉市場の構造変化

3. 鶏肉の購入構造の変化

図表 - 4 鶏肉の購入構造の変化

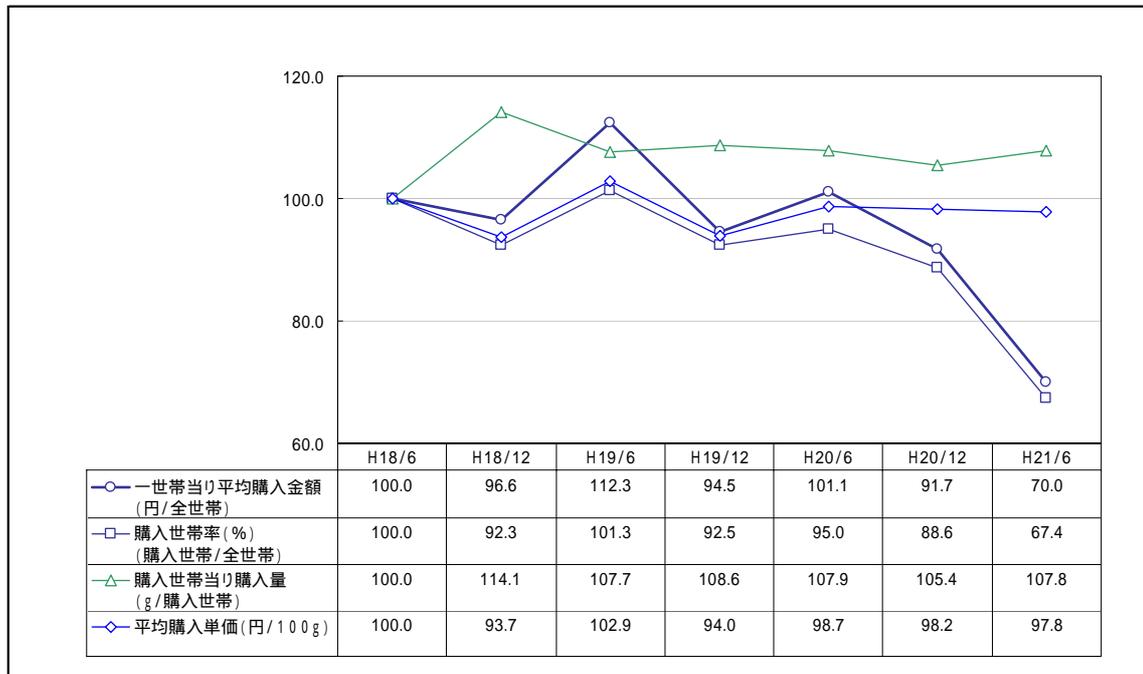


「鶏肉」は、市場規模を示す「一世帯当り購入金額」が前回から大きく下げた。購入世帯率も大幅に下げている、購入世帯の大幅な減少がうかがえる。一方で「購入世帯当り購入量」は上昇しており、より安い鶏肉を求めて多く購入しているのを見て取れる。

2 食肉市場の構造変化

4. 挽肉の購入構造の変化

図表 -5 挽肉の購入構造の変化



「挽肉」の市場規模は、夏に上がり冬に下がるという季節変動が見られたが、今回調査では豚肉や鶏肉と同様大幅に下げている。「購入世帯率」も大きく下げたが、「平均購入単価」は横ばい、「購入世帯当り購入量」は上昇に転じており、景気が悪く給料が増えない状況で、挽肉購入世帯では単価の安い挽肉を多く購入し、料理に役立てているのがわかる。